

## 第1部 文明と地域世界の形成

### 2 南アジア世界・東南アジア世界の形成

#### 1 古代インド文明の形成（教科書 P. 38～41）

##### ① [ ] [p. 38]

インダス川流域の都市文明（前 2500～前 1800）

- ・ハラッパーや [ ] など
- ・都市計画にもとづき、碁盤目状の道路網、井戸・排水溝・浴場施設などが整備
- ・青銅器、[ ] を刻んだ印章を使用
- ・大規模な宮殿・王墓や神殿は未発見→強大な政治支配者はいなかった
- ・沐浴の習慣、印章類の牛、地母神崇拜など→のちのヒンドゥー文化に継承される
- ・1800 年ごろ衰退

原因は気候の変化や洪水など諸説あり

##### ② アーリヤ人とバラモン教 [p. 38]

インド・ヨーロッパ語系 [ ]

- ・中央アジアで牧畜生活を送る
  - 前 1500 年ごろ、パンジャーブ地方に移住
  - [ ] などの先住民を征服
- ・牛を尊び、自然神を崇拜
  - 神々への賛歌集（『 [ ] 』など）を編纂
- ・前 1000 年ごろ ガンジス川流域に進出
  - 鉄器と農具を使用し森林を開拓
  - 農業生産力が向上し、人口が増大
  - 王侯・武士や司祭の階級が生まれる
- ・ [ ]（司祭者）は [ ] として儀礼を体系化し、特権的な地位をきずく
- ・『 [ ] 』・『 [ ] 』の二大叙事詩に当時の王族の生活がえがかれる

##### ③ [ ] 制度 [p. 39]

- ・アーリヤ人が先住民を区別  
→ヴァルナ（色）が、〔 〕になる
- ・ヴァルナ  
婚姻の規制と〔 〕により、強固に  
→のちのカースト制度の基礎となる
- ・輪廻からの解脱を説く〔 〕が生まれる

#### ④ 仏教の成立 [p. 40]

- ・前 600 年ごろ～ガンジス川流域に小王国が並立  
商工業が発達し、クシャトリアや商人が台頭  
→バラモン教の批判、現世の苦悩からの解放（〔 〕）をめざす思想が生まれる

〔 〕	宗教	〔 〕
ヴァルダマーナ	創始者	ガウタマ・シッダールタ（〔 〕）
徹底した禁欲・不殺生などの苦行	解脱するには	快樂・苦行によらない正しい実践

- ・仏教はヴァルナを否定し、平等な救済をとる

#### ⑤ マウリヤ朝による統一 [p. 40]

〔 〕（都：〔 〕）

- ・前 317 年ごろ マガダ国のチャンドラグプタが建国
- ・第 3 代〔 〕の時代に発展  
インド初の統一帝国が完成（南インドをのぞく）  
仏教にあつく帰依  
→〔 〕による統治をかかげる  
〔 〕や布教使の派遣  
スリランカが〔 〕の中心地に  
諸宗教を保護
- ・王の死後、マウリヤ朝は急速に崩壊

#### ⑥ クシャーナ朝と東西交流 [p. 41]

- ・前 2 世紀〔 〕王国がパンジャーブ地方に進出

→ギリシア文化が伝来

[ ] (都：プルシャプラ)

・1世紀 バクトリア地方の大月氏から独立して成立

→西北インドに進出

・[ ] の時代が最盛期

東西交易が活発化

仏教を保護

→上座部仏教に対抗して[ ] が成立

大乘仏教

・[ ] が目的（上座部仏教は出家者の解脱が目的の中心）

・[ ] や阿弥陀仏にすぎること救われる

・[ ] ([ ] 地方で生まれる) を崇拝

南インド

・サータヴァーハナ朝（前1～3世紀）のもとでバラモン教や仏教が浸透

→アジャンターなどの石窟寺院が建設

・ローマとの海上交易が行われる